

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	周手術期・健康危機状況看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2・3階
担 当 教 員	安部 孝賢 谷川 弥生 弓場 理紗子 川原 秀明	実務経験と その関連資格	看護師 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 総合病院でNICU・EICU・SCUで看護師として勤務 心臓血管外科・循環器内科・ICU等で病院に5年勤務			
《科目目標》						
①周手術期・健康危機状況/セルフケア再獲得の講義で学習した内容を活かして思考と看護実践を結び付けることができる。 (CABG術後、脳出血による開頭術を受けた対象の術後の観察が実践できる。)						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】授業態度(20%)、討論参加状況(20%)、課題レポート(60%) 授業態度、討論参加状況は初回時に説明する履修上のルールに逸脱していないかで評価する。課題レポートは、授業内容の理解および学生自身の考え方が明確に表現されているかを評価する。それらを含め総合的に判断する。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護① 呼吸機能障害/循環機能障害株式会社メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を学習して授業に臨むこと。 前授業内容について復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
成人看護援助論で学習したことの実践編になる授業である。思考と実践を結び付け、看護師になる上で、臨床判断能力の向上に繋げることを重要視している。演習、意見交換や学びの確認・共有時間には積極的に参加し、活発に自分の思いを表現していくこと、また、疑問に思ったことを解決できるようにすること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の解剖生理、動脈硬化の発生機序についての理解ができる	教科書	教科書を読んで来ること	
		各コマにおける授業予定	心臓の解剖生理(心臓の動き、冠動脈の走行、心臓の働き) 動脈硬化の発生機序			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	狭心症と心筋梗塞の違いが分かる 三枝病変についての理解ができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	狭心症と心筋梗塞の違い 三枝病変について(血管と障害部位の見方) CABGの術後観察点と挿入されるドレーンの管理方法			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例のアセスメントをし、緊急性と重症度の判断ができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	事例のアセスメント(個人思考)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例のアセスメントをし、緊急性と重症度の判断ができる グループワークで知識を共有し、臨床判断の視点を広げることができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	事例のアセスメント(協同学習)とグループワークと発表			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	心筋梗塞によるCABGを受けた対象の手術後帰室時の観察ができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	術後シミュレーションの実施			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 心筋梗塞によるCABGを受けた対象の手術後帰室時の観察ができる②	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	1回目のことを踏まえ、術後シミュレーションの実施2回目とリフレクション		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 脳の解剖生理について理解できる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	脳の解剖生理(中枢神経、脳の機能の局在、末梢神経)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 脳出血の病態生理を理解できる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	脳出血の病態生理と症状のメカニズム 脳出血の術後の観察点と術後挿入されるドレーンの管理方法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 事例のアセスメントをし、緊急性と重症度の判断ができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	事例のアセスメント(個人思考)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 事例のアセスメントをし、緊急性と重症度の判断ができる グループワークで知識を共有し、臨床判断の視点を広げることができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	事例のアセスメント(協同学習)とグループワークと発表		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 脳出血によるC開頭術を受けた対象の手術後帰室時の観察ができる	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	術後シミュレーションの実施		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 脳出血によるC開頭術を受けた対象の手術後帰室時の観察ができる②	教科書	教科書を読んで来ること 前回学習内容の復習
	各コマにおける授業予定	1回目のことを踏まえ、術後シミュレーションの実施2回目とリフレクション		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 腹腔鏡下手術を受けた対象の情報整理・アセスメントが理解できる	教科書	教科書を読んで来ること
	各コマにおける授業予定	(個人ワーク)術直後～術後1日目までの情報収集、経過表、麻酔侵襲による看護問題の立案		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 腹腔鏡下手術を受けた対象の生体侵襲の変化による術後経過が理解できる	教科書	教科書を読んで来ること
	各コマにおける授業予定	(個人ワーク)術後1日目～3日目までの生体侵襲を踏まえた術後合併症や早期離床の阻害因子は何かを考える		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標 腹腔鏡下手術を受けた対象の身体侵襲についてアセスメントができる	教科書	教科書を読んで来ること 授業終了時提出
	各コマにおける授業予定	(個人ワーク)所定の用紙を用いて、様式1-①、1-②を完成させる ※授業終了時に提出(記録評価)		